

東日本大震災 関連情報（第 29 報）

平成 24 年 3 月 19 日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 仮設住宅に初めての老人クラブが誕生 {福島県}

3月8日、郡山市の仮設住宅と借り上げ住宅に避難している富岡町の高齢者による「富岡町富田仮設・借り上げ住宅老人クラブ」の設立総会が開催されました。福島県老連が仮設住宅での新たなクラブづくりを提唱して、初めて結成されたクラブです。当日は来賓として富岡町長、町議会議長をはじめ、県老連から渡部会長、渡辺事務局長も出席して祝辞を述べました。

会員は約 130 人、60 代の若い人も大勢参加し、当日も 60 代の方から「今 2 人加入したい人がいるけどいいか」と発言があったといえます。この模様は、別添新聞のほか、テレビでも放映されました。（別添「福島民報など」参照）



設立総会役員一同



集まった新会員

2. 岩手県老連の「仮設住宅での友愛訪問」が紹介される

岩手県老連が実施する「被災地高齢者友愛支え合い事業」の大船渡市老連における活動について、岩手県社協機関紙2月号に掲載されましたので添付します。

(別紙 岩手県社協「パートナー」参照)

●支援活動

1. 宮城県石巻市老連を招待して、ふれあい交流事業を実施 [兵庫県老連]

兵庫県老連では、サポートしている宮城県石巻市老連の被災者を招待して、ふれあい交流事業を開催しました。3日間の日程では、芦屋市老連及び淡路ブロック老連と2か所で交流会を実施したほか、兵庫県老連建立の「阪神・淡路大震災記念碑」や南あわじ市老連管理の梅林を見学したり、手作り人形や箸などがお土産として渡されました。地元の会員が手作り郷土料理を振る舞い、郷土芸能を披露する一幕もありました。双方とも随所に涙する場面もあり、思い出深い旅になりました。

(詳細は、別紙「兵庫交流1～3」参照)

2. 県内避難者との交流、元気袋の作成 [山形県老連]

米沢市万世地区老連では、近隣へ避難している方々を招待して、輪投げや手作りの芋煮などを囲んでの懇談で交流しました。参加者は、避難者7名を含み30名余り。なお、この活動は県老連の震災避難者支援交流事業によるものです。

また、山形県老連では被災地が落ち着くころをみて、現在元気袋の作成をしています。その活動がテレビ、新聞で報道されましたので、併せて紹介します。

(詳細は、別紙「交流、元気袋1・2」参照)